

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2370400992		
法人名	有限会社 アット		
事業所名	アットホームあいり		
所在地	名古屋市西区玉池町255 (電 話) 052-509-5115		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年5月11日	評価確定日	平成19年7月3日

【情報提供票より】（平成19年4月20日事業所記入）

### （1）組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 12人, 非常勤 6人, 常勤換算 8.1人	

### （2）建物概要

建物構造	木 造り		
	2 階建ての	1~2 階部分	

### （3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円
敷 金	有 (200,000 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	400 円	昼食 550 円
	夕食	550 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

### （4）利用者の概要(平成19年4月20日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護 1	4名	要介護 2	4名
要介護 3	7名	要介護 4	3名
要介護 5	0名	要支援 2	0名
年齢	平均 84 歳	最低 76 歳	最高 100 歳

### （5）協力医療機関

協力医療機関名	名古屋市立城北病院 高田内科医院 なかた歯科 医療法人社団大栄会 名古屋中央歯科室
---------	---

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは静かな住宅地にある。庭はゆっくり過ごせるよう植え込みが工夫され、季節の花々や入居者が家庭から持ち込んだ草木が植えられている。職員は入居者一人ひとりの思いを尊重し、人間らしくその人らしく暮らせるよう支援している。家族アンケートにはホームの方針、ケアに対する高い評価、感謝の言葉が見られた。地域との関わりを大切に考え、日頃から地域を意識し積極的に働きかけており、さらに、安心して暮らせる地域と在宅を考える場として地域住民に呼びかけて「いどばた会」を立ち上げた。認知症に対する理解を深め地域との密着を深める場として今後が期待される。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価では高い評価を得たが、ミーティング等で日々の業務の中で出てきた課題について話し合い、ヒヤリハット報告書を作成した。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ホーム長は自己評価、外部評価を積極的に受け止めている。職員は評価の意義を理解しており今回の自己評価には全員で取り組んだ。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	参加メンバーには、一人ひとり呼びかけ協力を求めた。会議では認知症や介護保険についての質問が活発にでており、家族の代表者からの体験談もあり、認知症に対する理解を深めている。また、「いどばた会」を立ち上げ地域との密着を図りサービスの向上に努めている。外部評価の結果報告も行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会が年2回開かれ、多くの家族が参加している。普段から面会に訪れる家族も多く、訪問時には職員が積極的にコミュニケーションを図り家族が意見を言いやすいよう努めている。ホーム長に携帯やメールで連絡が取れることもできる。家族アンケートの結果からも良好な関係がうかがえた。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	町内会や老人会に加入し、小学校の運動会や地域の盆踊り等の行事に参加している。隣の畑の持ち主から野菜をいただいたり、入居者のエスケープの際に近所の人から知らせてくれたりと地域との関係が徐々にできてきている。ホーム内の行事であるバーベキューや餅つきの時には近所にも参加を呼びかけ交流に努めている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の尊厳を守り、一人ひとりが自分らしく安心して暮らすことを支援するため「女性は女性らしく、男性は男性らしく、人間は人間らしく」を理念としている。開所前から地域密着について重視しており、積極的に取り組んでいる。	○	地域密着型サービスとしての役割や意義について理解し、実践されている。今後は理念の内容に地域という言葉を織り込むことを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、職員が常に意識するよう事務所に掲示している。ホーム長はミーティングで理念について話し合いをし、また、日常のあらゆる場面において職員同士確認し合い、理念に基づいたケアに努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会や老人会に加入し、小学校の運動会や地域の盆踊り等の行事に参加している。隣の畑の持ち主から野菜をいただいたり、入居者のエスケープの際に近所の人から知らせてくれたりと地域との関係が徐々にできてきている。ホーム内の行事であるバーベキューや餅つきの際には近所にも参加を呼びかけ交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価では高い評価を得た。ミーティング等で日々の業務の中で出てきた課題について話し合い、ヒヤリハット報告書を作成した。ホーム長は自己評価、外部評価を積極的に受け止めている。職員は評価の意義を理解しており今回の自己評価には全員で取り組んだ。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーには、一人ひとり呼びかけ協力を求めた。会議では認知症や介護保険についての質問が活発にでており、家族の代表者からの体験談もあり、認知症に対する理解を深めている。また、「いどばた会」を立ち上げ地域との密着を図りサービスの向上に努めている。外部評価の結果報告も行われている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームから市に運営推進会議への参加の働きかけはしているが現状は難しい。名古屋市グループホーム協議会の役員をしており、市と話し合う機会はある。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月家族に報告しており、居室担当者が入居者の日々の暮らしの様子を手紙で具体的に伝えている。また、行事や普段の生活の中で見せる生き生きとした表情も写真に撮り送っている。家族からの返事もあり職員の励みになっている。金銭管理については、出納帳の写しを領収書と一緒に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が年2回開かれ、多くの家族が参加している。普段から面会に訪れる家族も多く、訪問時には職員が積極的にコミュニケーションを図り家族が意見を言いやすいよう努めている。ホーム長に携帯やメールで連絡が取れることもできる。家族アンケートの結果からも良好な関係がうかがえた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	設立当時からの職員が多く、職員の異動は少ない。新しい職員が入った時は2週間は馴染みの職員を配置し、入居者との間に入りながら新人職員を指導している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用1カ月以内に新任研修、また、毎月のミーティング時に勉強会を行っているほか、外部の研修に参加する機会も設けている。区内の有志4ホーム合同の勉強会も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市グループホーム協議会に参加している。区内4ホームで研修と交流の場を設け、毎月テーマを決めて話合っている。参加した職員からは発表することで自分達が行っているケアの意味を再確認することができ、レベルアップにつながっていくという声が聞かれた。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族には、入居者本人も一緒に見学してもらうことを勧めており、空き室があれば体験入居をしてもらっている。共有空間の和室に泊まった人もいる。入居者が自宅にいた時の交友関係を断ち切らないように、家族には友人知人に入居したことを知らせてもらうようお願いしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が入居者の不穏の前兆を見逃さず、慌てず穏やかに対応し、入居者の思いを察して、平穏な生活に尽力している。調理、裁縫など家事や趣味のことについて入居者に教えてもらうことも多い。人生の先輩として会話の中やさりげない一言から夫婦のあり方や生き方を学ぶこともある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症ケアのために開発された「センター方式」も用い入居者の希望や意向を把握するとともに、職員全員が日常の生活の中での言葉や行動から本人の思いを汲み取るよう努めている。ホーム長は、本人の状況や気持ちの理解を深めるために入居前に住んでいた場所を訪ねている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は入居者や家族と話し合い、意見要望を反映し作成されている。月1回自宅に帰りたいという本人の希望を取り入れた計画もあった。業務日誌には、本人の様子のほか職員の気づきや提案も書かれており、介護計画の作成に活かされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは3カ月ごとに行っているが、状況に応じて随時見直している。居室担当者がモニタリングを行い、ミーティングで話し合っている。また、面会時に家族の意向も聞いている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況や希望に応じて受診の付き添いを行っている。入院時にはなるべく毎日見舞いに行き安心感を持ってもらい、毎日馴染みの顔を見ることが退院後のスムーズな生活につながっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院介助は状況に応じて職員が行っている。特別変化があった場合には家族に電話連絡で報告している。同行した職員が家族、本人と医師の間の橋渡し役になって説明している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の方針を設けており、入居時に家族にホームでの医療サービスの提供内容について説明し、同意書をもらっている。職員は終末期の方針を共有している。既にホームでの看取りを経験しており、帰宅の際は皆で見送った。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーを損なわない対応の徹底を図っている。突然奇声をあげる入居者への対応も本人の誇りを傷つけないよう職員はさり気なく声をかけ対応していた。個人情報の保護の徹底を図り、記録や文書の保管にも気を配っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの気持ちを尊重し制止しない方針で接している。入居者は時間の制限が無く、一人になったり、気の合った者同士でいるなど思い思いに過ごしている。気になっていた自分の会社へ一日だけ出勤したり、家族の了解を得てゆっくりと晩酌を楽しむなど、本人の希望に沿った支援が行なわれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の希望を取り入れて作られる。食事の準備や片付けは入居者と職員が一緒に行い、野菜を切ったり盛り付けしたり、配膳など入居者のできることをしてもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間は決めておらず、入居者の望む時間に対応している。足を伸ばせる大きめの浴槽もあり、気のあった者同士で入ることもある。近くにある同法人のデイサービスセンターに入りに行くこともある。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の経験や趣味を継続してもらえるよう支援しており、大好きな自転車に乗り、生き生きとした表情を見せる入居者や社交ダンス、テーブルでの卓球を楽しむ入居者もいる。台所に入って調理をした入居者から「やらせてくれてありがとう」という言葉があった。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物や散歩の他、外食、喫茶店、花見なども楽しんでいる。近くにある同法人のデイサービスセンターまで遊びに入居者が一人で出かけることもあり、事業所間で連絡を取り合い見守っている。一人で散歩に出かける人もおり、周辺を一周する時は角ごとに職員が見守り安全を図っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解しており、出て行く気配や外出の傾向を掴んでいて、制止せず見守ることを心がけている。周囲の理解も少しずつ進んでおり、通りがかりの人から知らせてもらうこともある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日頃から地域との関係作りに努めており、警察、消防の協力を得られるよう働きかけており、消防署の方がよくきてくれている。年1回避難訓練、設備点検をしている。災害時における備蓄品の整備には至っていない。	○	災害時に備え食料、物品等の準備を今後期待したい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量は自立の方はチェックしていない。入居者の状態に応じて刻み食などにしている。普通の家庭の食事を基本としており、食事量のチェックはしているが、カロリー計算などはしていない。	○	定期的に栄養士や保健師などの専門的アドバイスを求める事を期待したい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁面は普通の家庭らしさを意識しておりすっきりしている。入居者が庭からつんできた花が飾られ、節句の置物などが季節を感じさせる。入居者手作りの日めくりや暖炉が置かれており、落ち着いたぬくもりが感じられる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の使い慣れた家具や家族の写真、家族が描いた絵などが飾られていたり、仏壇や生花師範の看板などを持ち込んでいる入居者もあり、居心地よく過ごすことができるようにしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。